

最終日（団体競技）

昨日の個人総合でも熾烈な勝負があったここ高崎アリーナ。最終日は団体競技。

男子新体操の団体はこれまでの長い歴史の中で、「男子団体は 6 名」が原則だ。しかし、2024 年より国民スポーツ大会（旧国民体育大会）の復活が決定している。その決定に合わせて男子の団体が「5 名」へと変更になる。大きな変更ではあるが、この決定が新たなる進化への第一歩であると捉えて進みたい。要するに本大会が最後の 6 人団体を見るチャンスであるといえる。全国の予選を勝ち抜いた 21 チームがプライドをかけて激突する！

Wing まつもと RG 構成 3.350 実施 3.250 減点 0.00 合計 6.600

緊張感のある試技順 1 番。物静かなメロディに合わせて基本徒手を大切に演技構成をしっかりと合わせていく。倒立もピタリと静止しトップバッターの役割を果たした。

大垣共立銀行 OKB 体操クラブ 構成 6.500 実施 5.150 減点 0.00 合計 11.650

個人総合王者丸山を擁する名門クラブ OKB。もはや OKB の代名詞ともいえる迫力のある音楽に合わせてフロアを縦横無尽に駆け巡る。半分以上が小学生のチームとは思えないほどの演技で会場を沸かせた。

REX SPORTS CLUB 構成 5.900 実施 4.950 減点 1.500 合計 9.350

5 名で登場した REX。今年はまだ 6 名ルールのため減点は避けられないが、来年度はこのような演技になるのかと想像させてくれる演技であった。一人一人の美しい動きを武器にしっかりとまとめてきた。

ホワイトキューブ新体操教室 構成 6.700 実施 3.950 減点 0.00 合計 10.650

数多くの優秀な選手を輩出してきた東北の雄。美しい衣装に合わせた個性的な振り付けが魅力のチーム。序盤から運動量高くフロアを駆け巡る。疾走感の中にある一瞬の静止をうまく表現と交える。最後まで動き切ったと感じれる一本であった。

えびの新体操クラブ 構成 5.350 実施 4.250 減点 0.00 合計 9.600

個性的な組技を武器に観客をあっと言わせる演技だった。今大会で九州ブロックからは 7 チーム参加と最多出場ブロックだ。それだけ九州地方のジュニアが充実しているのだが、そのレベルは高い。熾烈な予選を勝ち抜いたチームであると感じる一本であった。

ソルクス体操クラブ 構成 6.300 実施 4.550 減点 0.00 合計 10.850

毎年のように確実に力をつけてきているソルクス。クラブとしてはまだ新しいが、基本を堅実に練習していることが伺える内容だった。個々が徒手の形や意識をできる限り揃えようとしていることを感じる事ができた。

神崎ジュニア新体操クラブ 構成 8.250 実施 7.350 減点 0.10 合計 15.500

毎年この高いレベルを維持し続けることは驚嘆に値する。強豪チームと言われるにふさわしい演技であった。序盤からスピード感ある隊形変化に加え、ジュニア離れしたタンブリング力。その一つずつが高いレベルで実施される。選手、観客共に納得の一本だった。

佐賀ジュニア新体操クラブ 構成 7.250 実施 6.200 減点 0.00 合計 13.450

先ほど演技した神崎ジュニアを「動」とするならば、佐賀ジュニアは「静」だ。美しく流れのある徒手を武器に丁寧に演じる。その一つずつはまだ未熟ながら、この先に期待を抱かせる演技であった。

小林中学校 構成 4.800 実施 3.400 減点 0.00 合計 8.200

身長差はあるが動きの同調性でそれを感じさせない。タンブリング技術に個々のレベル差はあったが、今できることをすべて出し切ったと感ずることができ一本だった。

井原ジュニア新体操クラブ 構成 7.100 実施 6.250 減点 0.00 合計 13.350

兄貴分である井原高校は今年のインターハイでは圧倒的な演技で優勝を勝ち取った。井原ジュニアもその血筋を受け継ぎ毎年観客にあっと言わせる演技が持ち味だ。今年の演技も高い柔軟性とスピード感のある徒手でグイグイ攻めてくる。途中倒立でのミスはあったが井原ジュニアらしい演技で会場を沸かせた。

水俣ジュニア新体操クラブ 構成 7.250 実施 4.850 減点 0.00 合計 12.100

ひと昔前に水俣ジュニアの先輩である水俣高校がインターハイを連覇した時代があった。その時に一世を風靡した技が「水俣スペシャル」。一人の選手の上に肩倒立し、その開脚した足の間を組技の前方宙返りで超える技だ。演技冒頭はこの技からスタートし、往年の演技を彷彿とさせる同調した徒手で堅実に演じ切った。

BLUE KIDS 構成 6.950 実施 5.250 減点 0.00 合計 12.200

近年確実に力をつけてきているチームの一つだ。ダンスブルでリズムのある演技を軽快に演じる。その中で前後左右に駆け巡る隊形変化にも目を見張るものがある。タンブリングの着地でミスがあったが、チームの表現したいものはやり切れたように感じた。

AJH 構成 6.800 実施 5.200 減点 0.00 合計 12.000

演技冒頭に左右に移動する素早い動きを使用しスピード感を見せる。タンブリングも一つずつ確実に決め大きなミスが目立つことなく演じ切った。

北海道新体操クラブ恵庭 構成 7.000 実施 5.500 減点 0.00 合計 12.500

過去に優勝の経験もあるチームの登場だ。今大会では個人でも北海道選手たちの層の厚さを知らしめてくれた。徒手の形をきっちりと合わせてきた。一人一人の動きが最後まで揃っていた印象だ。演技後半も運動量が落ちることなく最後まで走り抜けた。

三桜ジュニア新体操クラブ 構成 5.500 実施 4.850 減点 1.50 合計 8.850

5人での登場となった三桜。しかし、重厚な音楽に合わせて迫力のある徒手とタンブリングで人数が少ないことを感じさせない演技であった。今後の更なる成長にも期待したい。

君津新体操クラブ 構成 4.800 実施 4.600 減点 0.00 合計 9.400

千葉を拠点に長く活躍する君津ジュニア。今回のメンバーに小学生も入る中での挑戦だ。小気味よい演技のリズムに合わせてピタッと決めていく。小柄な体を最大限動かして表現する姿には会場から大きな拍手が送られた。

広島ジムフレンズ 構成 4.950 実施 3.650 減点 0.00 合計 8.600

物静かなメロディに合わせて体を思いきり動かして演じる。タンブリングや倒立の揺らぎなどミスもあったが選手たちは最後まで集中していた。

国土館ジュニアRG 構成 6.650 実施 5.750 減点 0.00 合計 12.400

国土館大学、国土館高校の弟分。映画「すずめの戸締り」のメロディに合わせてしなやかに演じる。美しい演技が持ち味である国土館ジュニア。多少のバラツキは見られたものの今できることは全てやり切った。

阿久比新体操クラブ 構成 7.550 実施 5.550 減点 0.00 合計 13.100

今年はクラブ選手権で優勝し勢いに乗っている阿久比。ピタリと合わせた徒手を武器に確実にこなしていく。楽曲が前の試技順の国土館と同一であったが、また一味違う表現を見せてくれた。倒立の落下は残念だったが選手たちの健闘に賞賛を送りたい。

華舞翔新体操倶楽部 構成 7.350 実施 5.600 減点 0.00 合計 12.950

近年は少し上位から遠ざかっていた華舞翔。しかし、今年は一味違った。幼かった選手達が確実に成長した姿を見せてくれた。柔らかな表現を武器に流れるような隊形変化を見せてくれた。演技冒頭に入れ込んだバックブリッジからの倒立はオリジナリティの高い技術だ。今後の成長が更に楽しみなチームだ。

JKA芦北ジュニア新体操クラブ 構成 8.250 実施 7.100 減点 0.00 合計 15.350

本大会男子ラストに登場した芦北。九州で神崎ジュニアと激戦を繰り広げてきたチームの力は本物だった。一見すると小柄な選手も多く迫力に欠けるかと思えるが演技が始まるとその考えは一蹴される。選手たちの対格差を活かした高さのある組技で会場を沸かせた。

《団体最終順位》

優勝 神埼ジュニア新体操クラブ

第2位 JKA芦北ジュニア新体操クラブ

第3位 佐賀ジュニア新体操クラブ

全国から集った21チームの頂点に立ったのは神埼ジュニア新体操クラブであった。高い実施力に加え迫力のあるタンブリングで、2019年以来の優勝を勝ち取った。また、上位3チームが全て九州チームなのだから九州の層の厚さには感嘆するしかない。

今年の激闘もこれにて終了した。コロナの脅威はいまだに存在するが、人類は少しずつ上手に付き合えるようになってきている。会場には多くの観客が集まり選手の演技に拍手と歓声を与えてくれた。そのあと押しが選手たちの演技を確実に引き上げてくれたと感じる。

男子新体操は2024年に新たなステージを迎える。未知なる道程の中で様々な困難が待ち受けていると思うが、この大会に参加した選手達を見ているとそんな不安は杞憂を感じる。彼らならまた新たな「新時代」を築いてくれると確信できる大会であった。

(男子新体操委員会)